

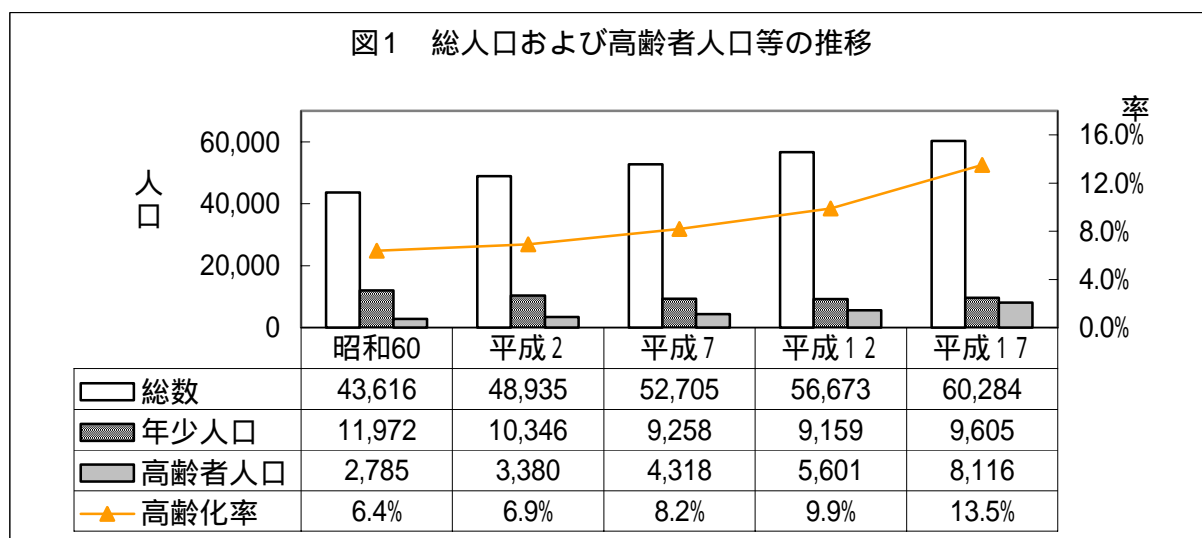
1 吉川市の現状

1 人口

吉川市の人口は、年々増加しています。

65歳以上の高齢者人口も増え続け、過去5年間で1.5倍に増え、平成17年度には約7人に1人が高齢者となっています。

一方、15歳未満の年少人口は平成7年までは減少傾向にありましたが、ここ数年は増加傾向にあります。

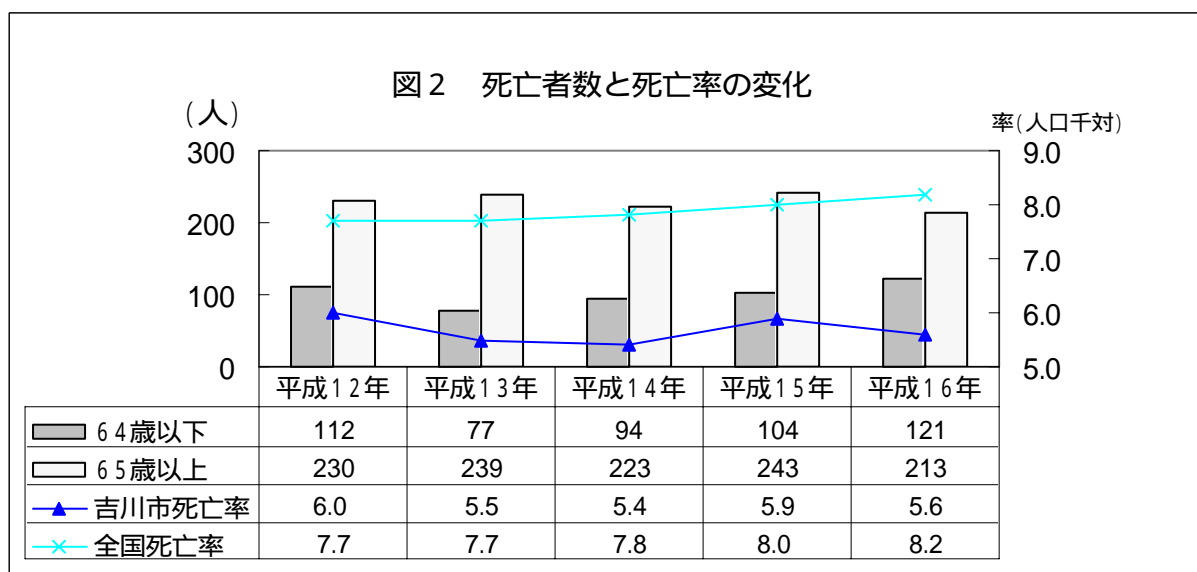


(国勢調査より)

2 死亡の状況

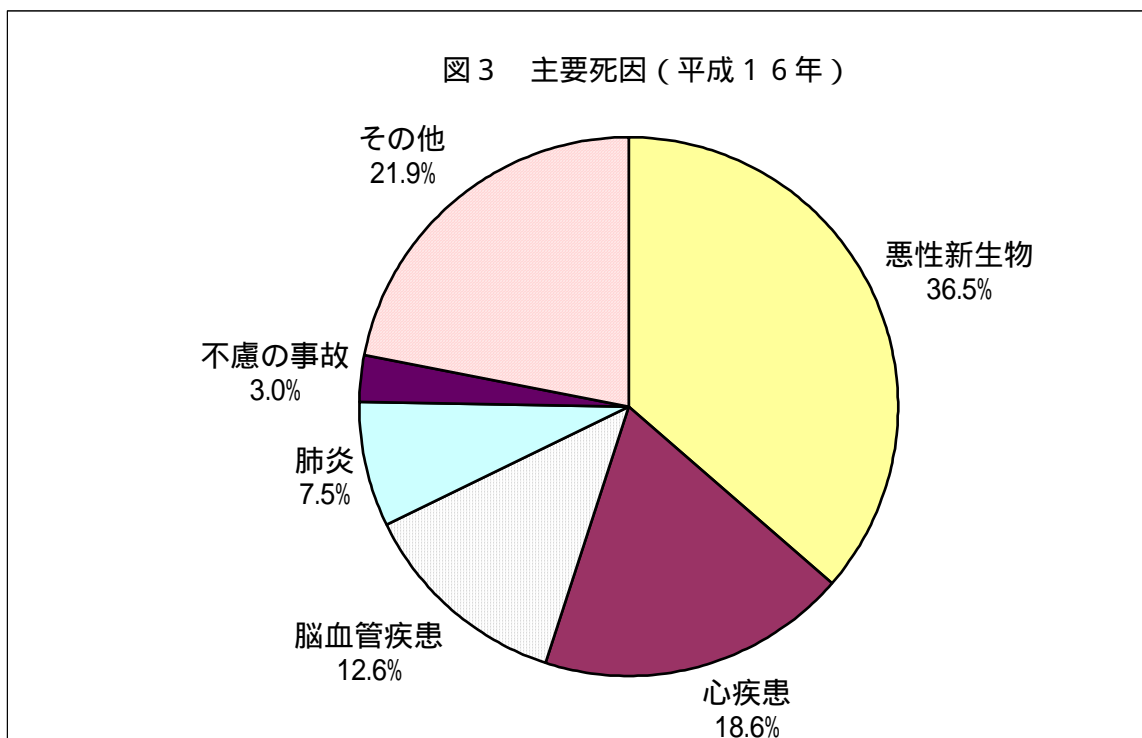
吉川市の死亡率は全国に比べると低くなっています。

全体の死亡者数はあまり増えていませんが、64歳以下の死亡者数は増えています。

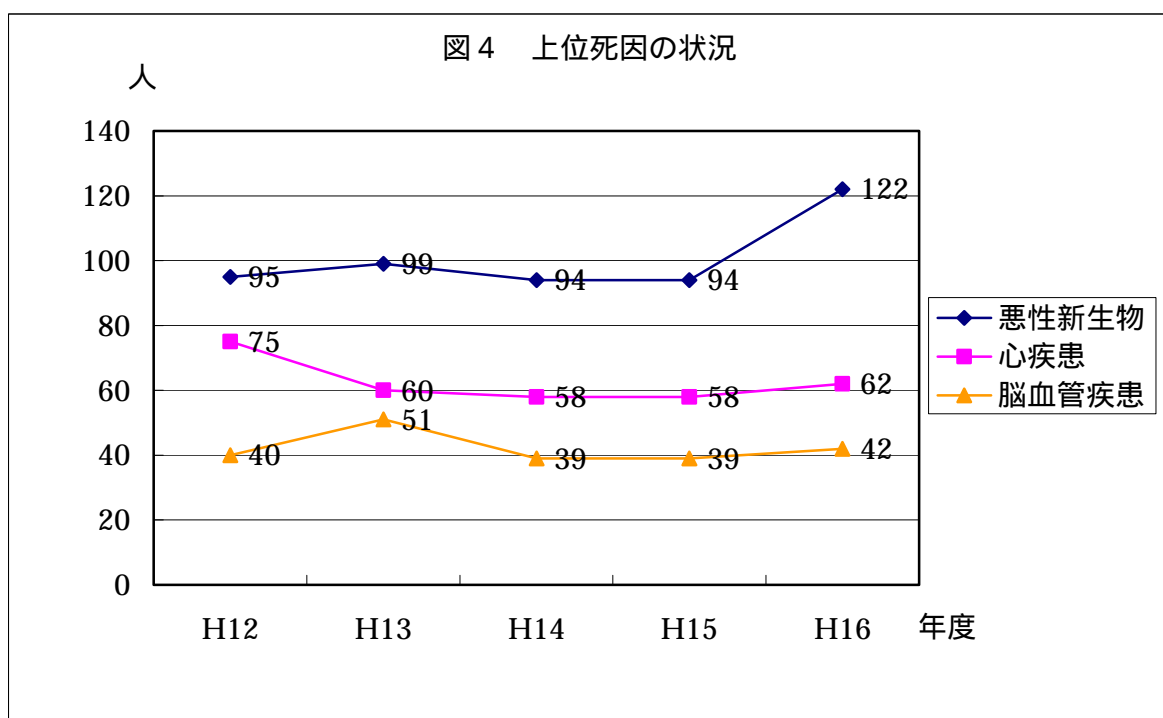


3 主要死因

過去5年間の主要死因第1位は、悪性新生物（がん）となっています。
 主要死因第1位の悪性新生物（がん）は、年々増えつづけています。



（旧吉川保健所:保健のあゆみ）



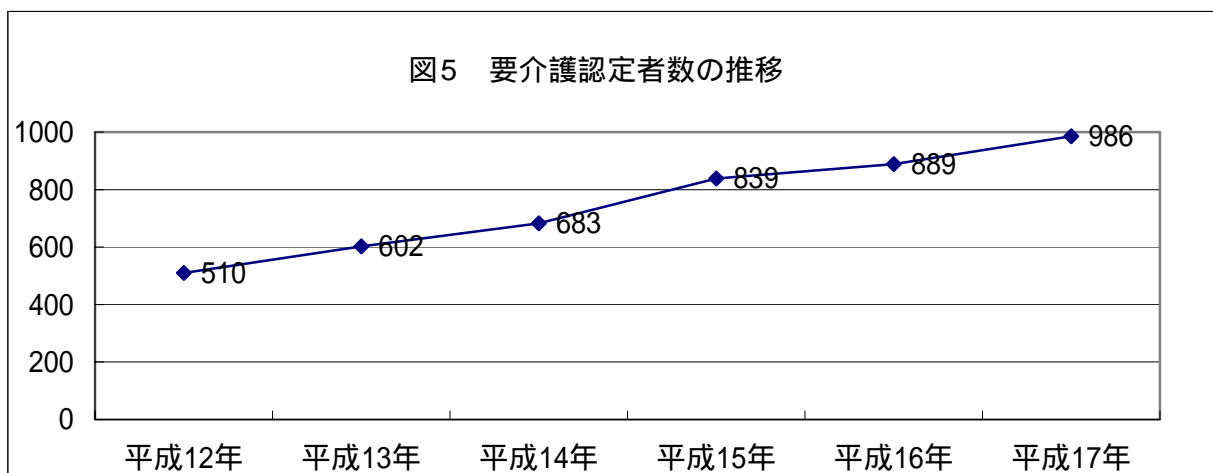
（旧吉川保健所:保健のあゆみ）

4 介護保険の状況

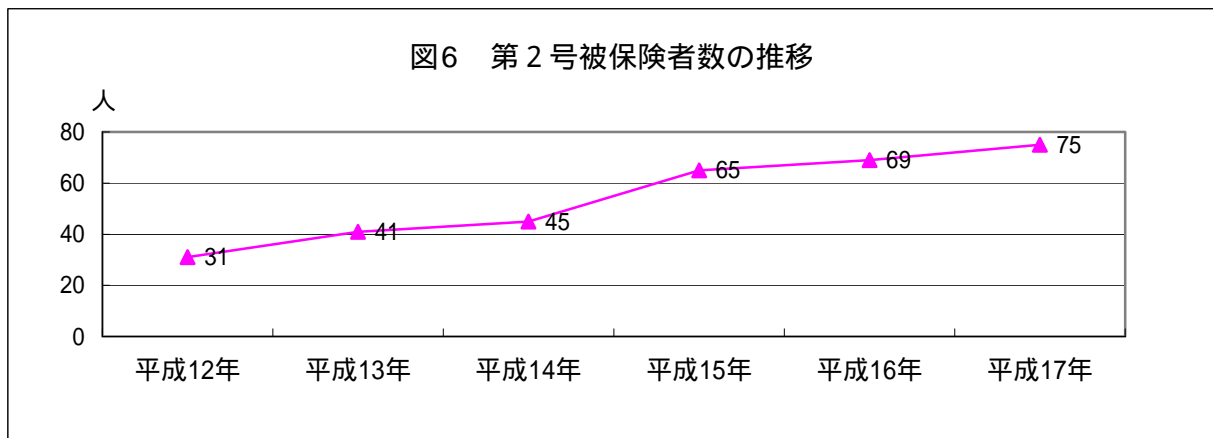
(1) 認定者数の推移

平成12年介護保険制度導入時から認定者数は、年々増加し、平成17年度には1.93倍となっています。

40歳以上65歳未満の第2号被保険者の認定状況においても年々増加し、平成17年度は2倍以上に増えています。



(吉川市介護保険事業報告)



(吉川市介護保険事業報告)

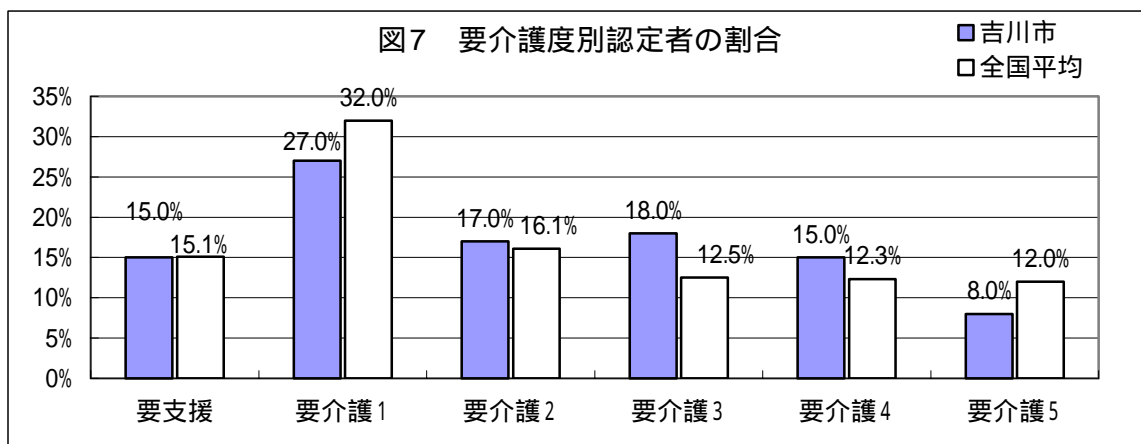
表1 年度別要介護認定者数(各年度末)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
要介護認定者総数(A)	510人	602人	683人	839人	889人	986人
1号被保険者認定者数	479人	561人	638人	774人	820人	911人
2号被保険者認定者数(B)	31人	41人	45人	65人	69人	75人
(B)/(A)	6.1%	6.8%	6.6%	7.7%	7.8%	7.6%

(吉川市介護保険事業報告)

(2) 要介護度の状況

要支援、要介護度1・2の軽度認定者が、半数以上を占めています。
 要介護度3・4の重度認定者の割合は、全国平均及び県平均を上回っています。



(吉川市介護保険事業報告)

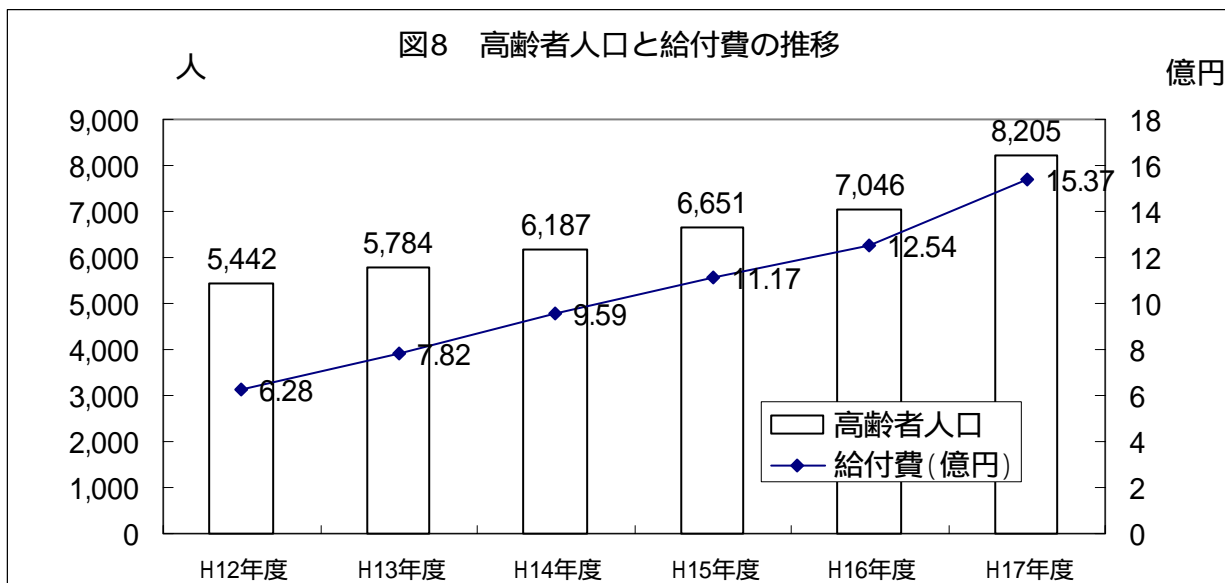
表2 要介護度別人数(平成17年10月)

介護度	吉川市		全 国	埼玉県
	人数(人)	割合	割合	割合
要支援	133	15.1%	15.1%	13.1%
要介護1	239	27.2%	32.0%	31.6%
要介護2	149	17.0%	16.1%	16.5%
軽度	521	59.3%	63.2%	61.2%
要介護3	158	18.0%	12.5%	14.5%
要介護4	132	15.0%	12.3%	13.7%
要介護5	67	7.7%	12.0%	10.6%
重度	357	40.7%	36.8%	38.8%
計	878	100.0%	100.0%	100.0%

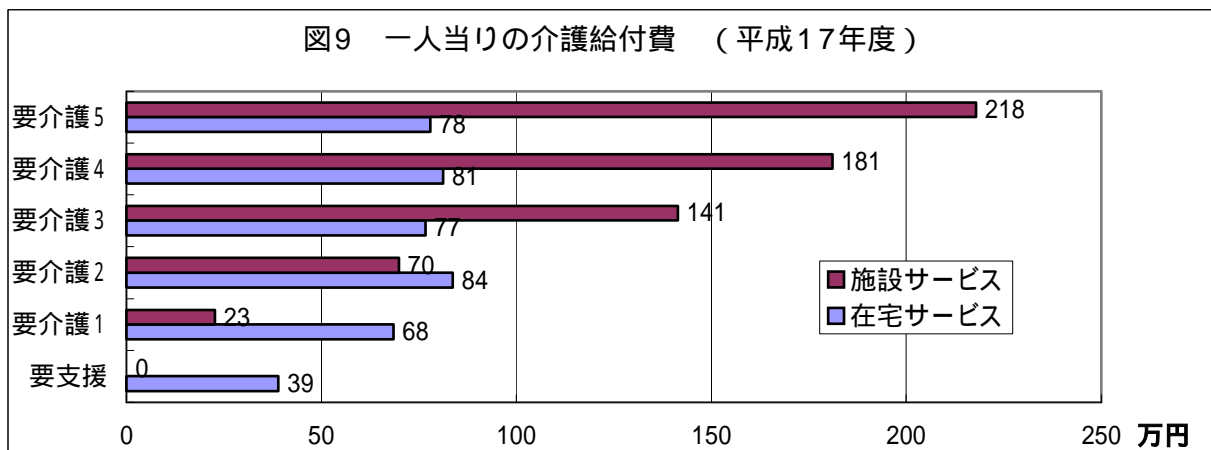
(吉川市介護保険事業報告)

(3) 給付費の状況

介護保険給付費は、過去5年間で2倍以上に増えました。
 高齢者人口の増加率よりも、給付費の増加率が高くなっています。
 また要介護者一人当たりの平均給付費は、155万円で、介護度が重度になるにつれ、給付費も高くなっています。
 在宅サービス利用者の一人当たりの給付費は、要介護度に関係なく、約70~80万円となっています。



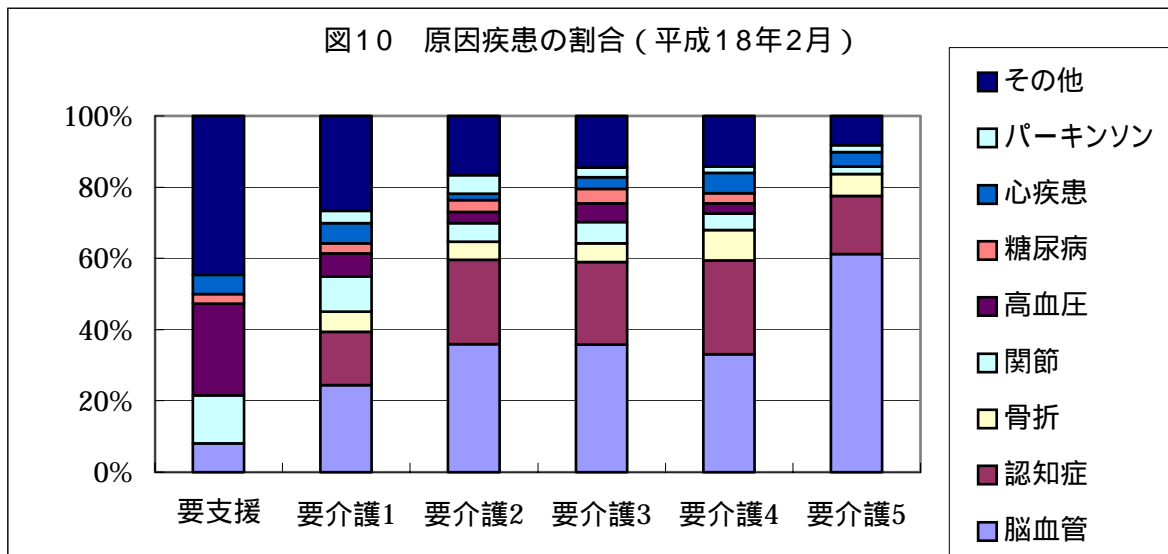
(吉川市介護保険事業報告)



(吉川市介護保険事業報告)

(4) 要介護認定者の原因疾患

要介護認定となった原因疾患は、脳血管疾患が非常に多く、次いで認知症となっています。介護度別にみると、要支援では骨折が最も多くなっていますが、重度になるにつれ、脳血管疾患の割合が多くなっています。



（吉川市介護保険事業報告）

5 身体障害者手帳取得者の状況

身体障害者手帳取得者のうち、1級取得者は3分の1を占めています。

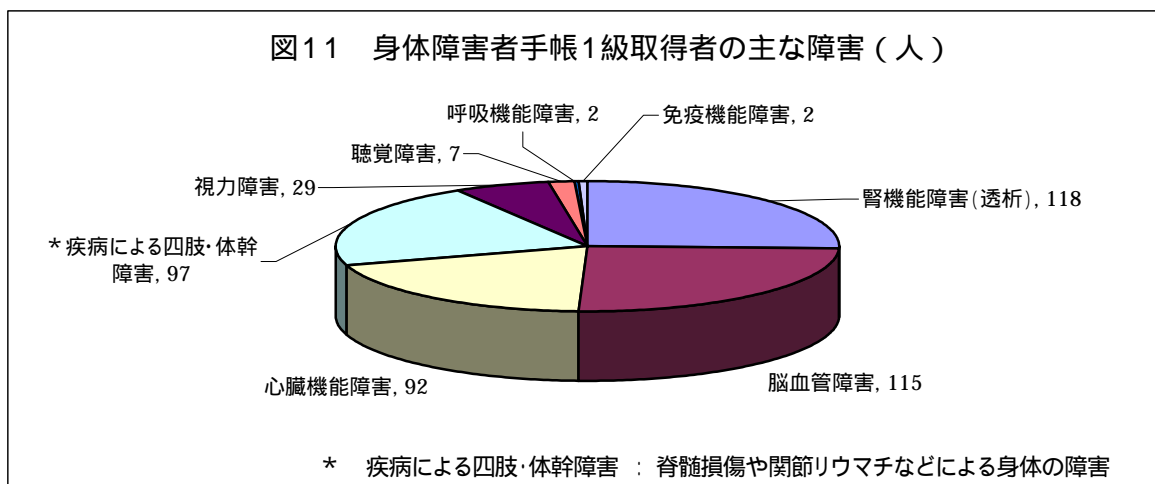
1級取得者の取得要因は、腎機能障害（人工透析）、脳血管障害、心臓機能障害で7割を占めています。

1級取得者のうち、最も多い腎機能障害者の約3割が糖尿病の合併によるもので、年々その数は増えています。

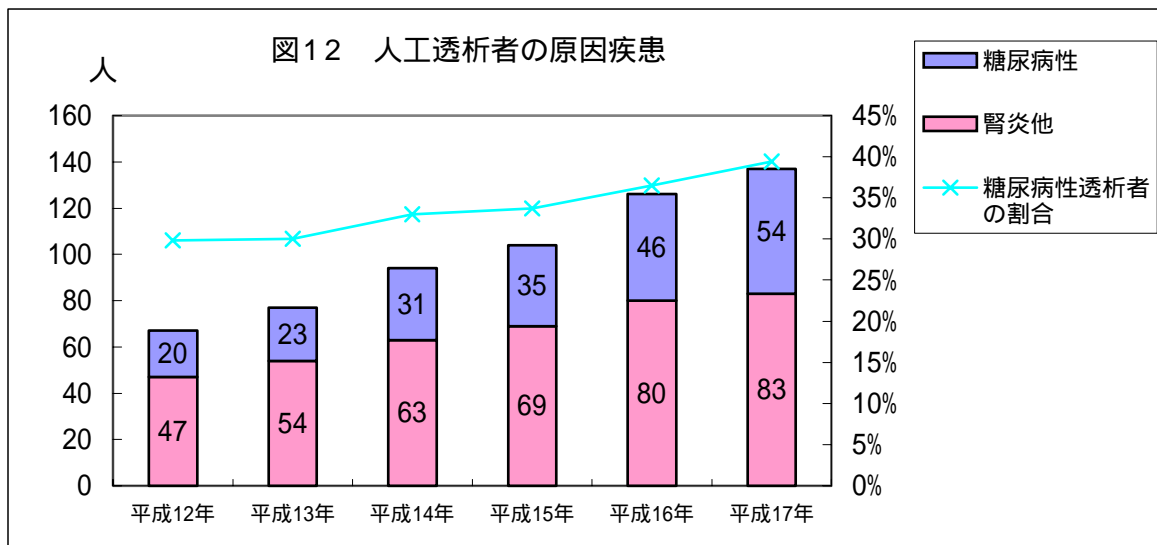
表3 身体障害者手帳取得者等級別人数（平成18年1月）

等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	462	205	239	291	93	54	1,344

（吉川市身体障害者手帳集計）



（吉川市身体障害者手帳集計）

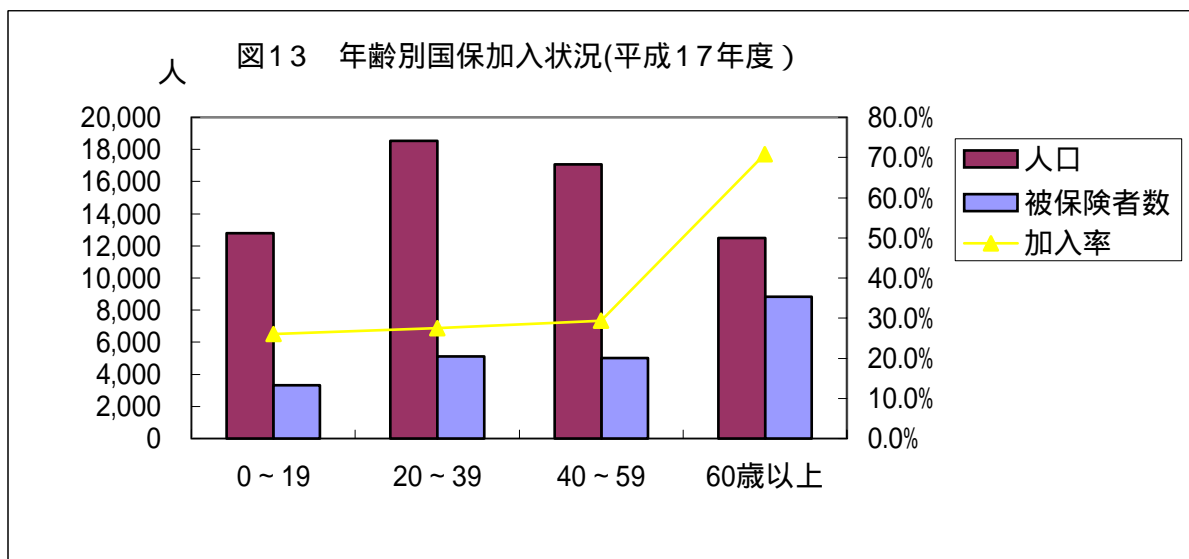


(吉川市身体障害者手帳集計)

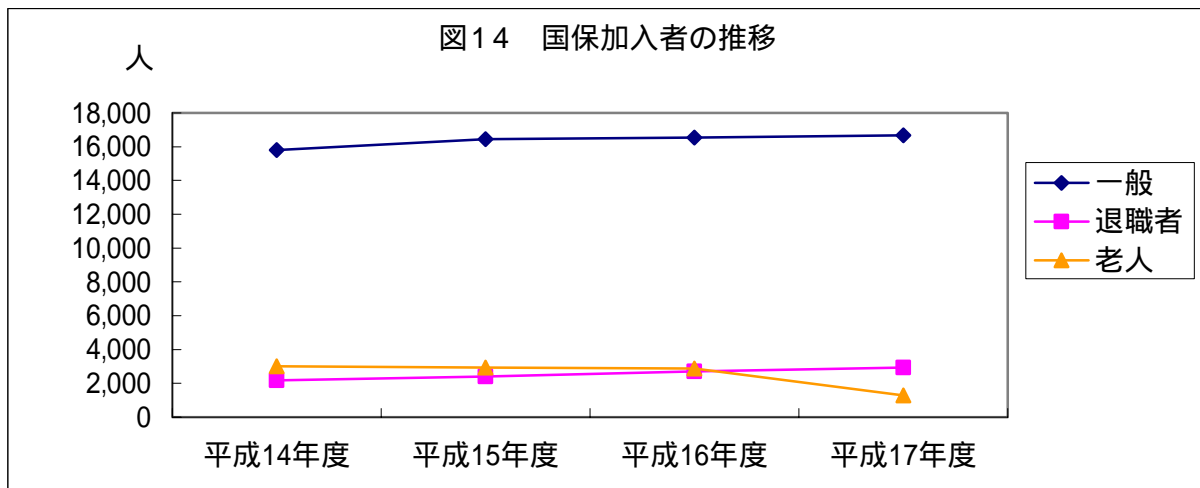
6 国民健康保険加入者の状況

1) 国保加入状況

吉川市人口の約3割が加入し、加入率は36.6%です。
 60歳以上の高齢者の加入率は、70.8%となっています。
 ここ数年間の国保加入者数は、ほぼ横ばいとなっています。



(吉川市国民健康保険)



(吉川市国民健康保険)

2) 吉川市国保医療費の状況

年齢階級別受診状況は、国保加入者の最も多い60～69歳の医療費が一番高くなっています。

高齢になるにつれ、医療費もかかっています。

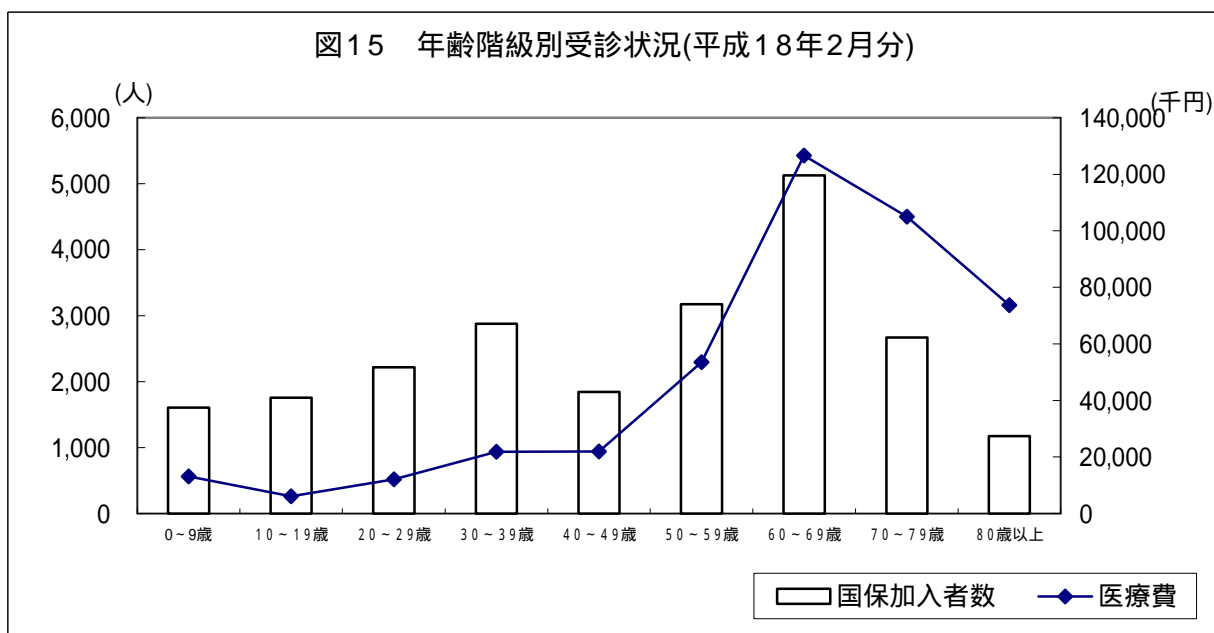
国保加入者数はここ数年大きな増減はありませんが、医療費は伸びています。

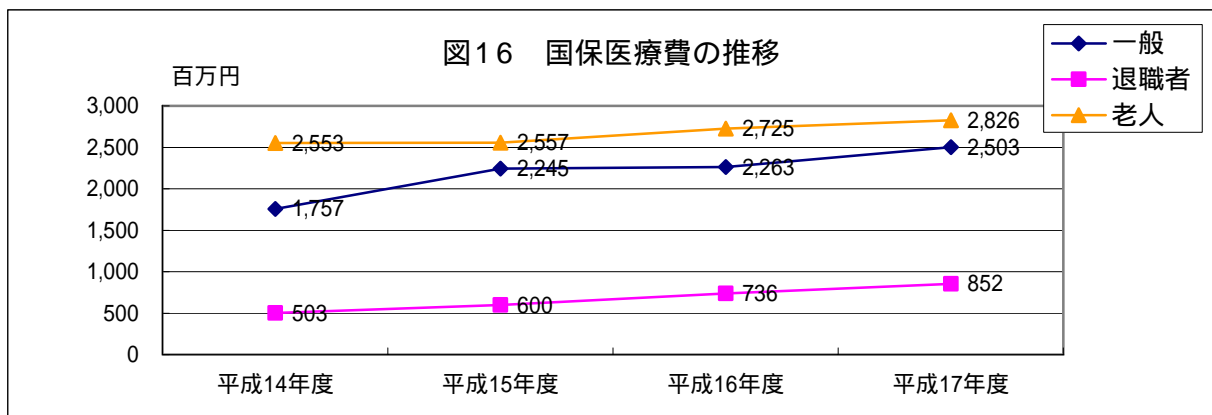
特に国保一般加入者の医療費は平成14年からの4年間で7億円も増加しました。

国保老人保健医療費は、平成14年からの4年間で3億5千万円増えました。

国保加入者一人当たりの医療費は、県平均と比較するとわずかに下回っています。

一人当たりの医療費を加入状況別でみると、老人、退職者は県平均を上回り、老人医療については県内で1位となっています。





(吉川市国民健康保険)

表4 国保加入者の一人当りの医療費

(単位：円)

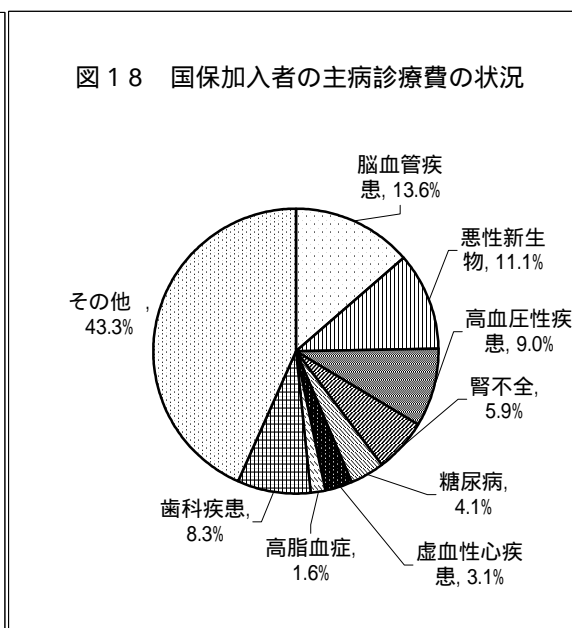
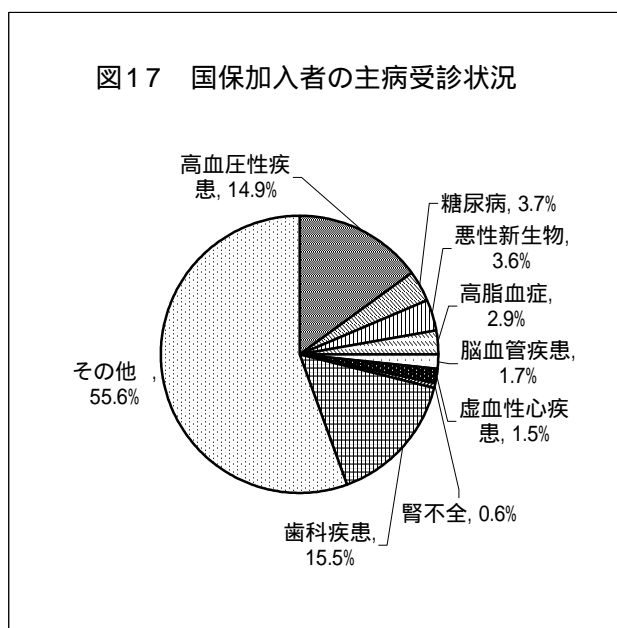
	合計		一般		退職者		老人	
	一人当りの医療費	県内順位	一人当りの医療費	県内順位	一人当りの医療費	県内順位	一人当りの医療費	県内順位
吉川市	20,091	55	12,745	40	24,115	11	59,042	1
埼玉県	20,232	-	11,957	-	22,541	-	52,344	-

(平成17年4月～平成18年2月の月平均国保医療費)

3) 国保加入者の主病受診状況

国保加入者の受診件数のうち、一番多い疾患は歯科疾患となっています。

国保医療費のうち、脳血管疾患、悪性新生物、高血圧などの生活習慣病といわれている疾患が、全体の約半分を占めています。

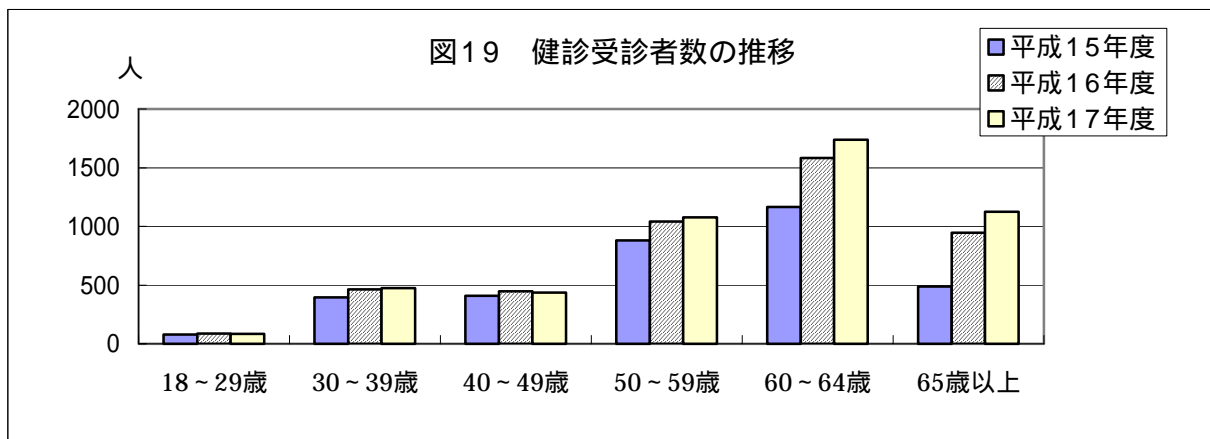


7 基本健康診査の状況

(1) 健診受診者数

全体の受診者数は、年々増加しています。

年代別受診者数は18～59歳までの若い世代の受診者数はあまり増加していません。



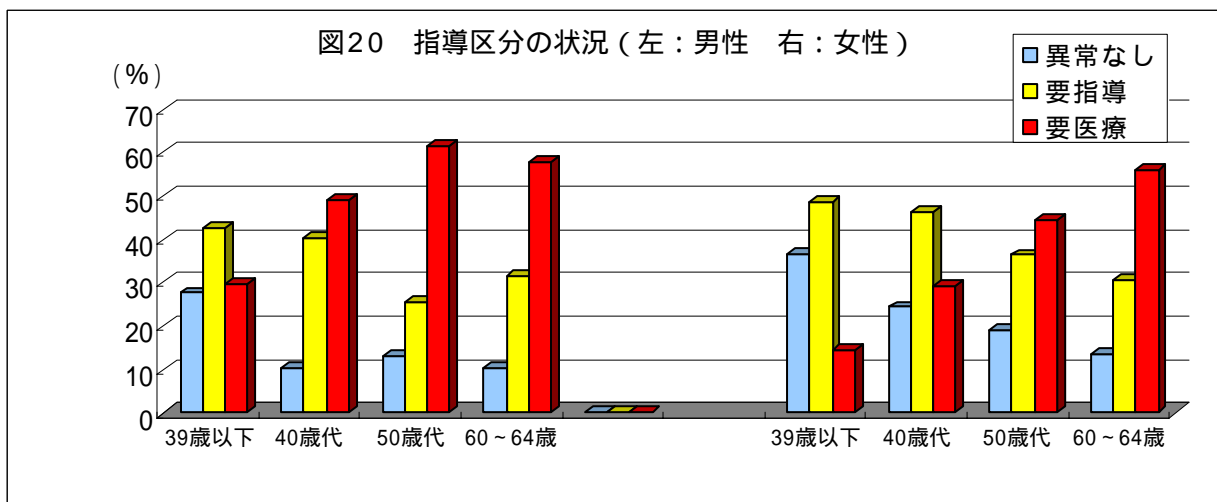
(2) 健診結果

「異常なし」「要指導」「要医療」の3つの指導区分の状況をみると、男女とも加齢とともに「要指導」「要医療」の割合が増えています。

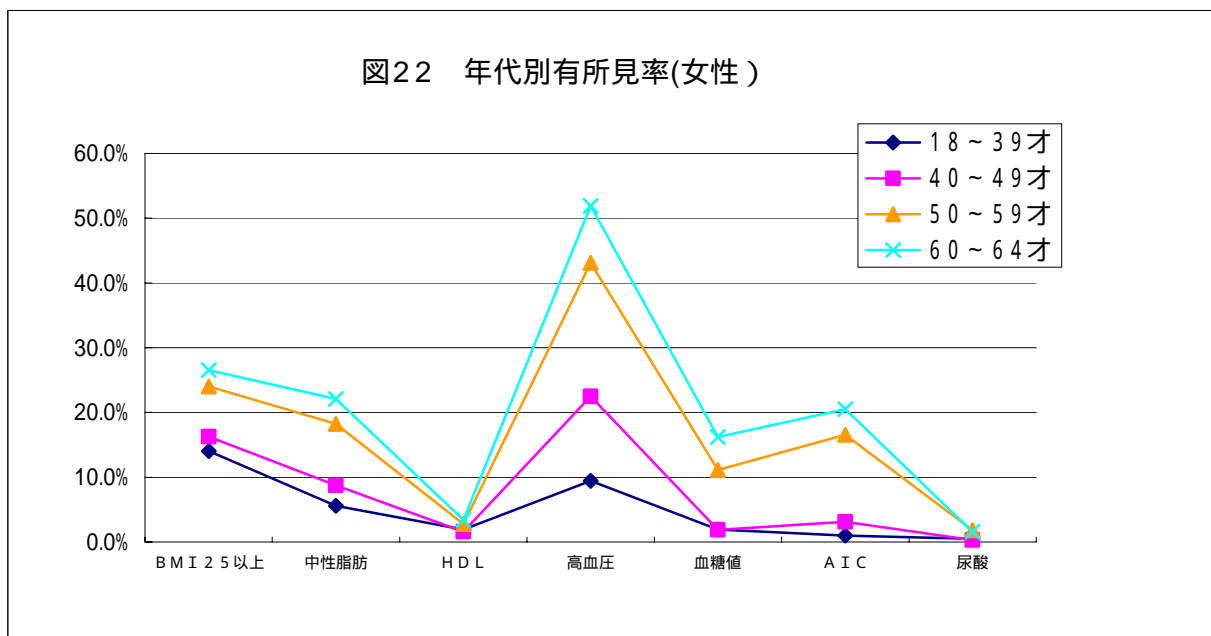
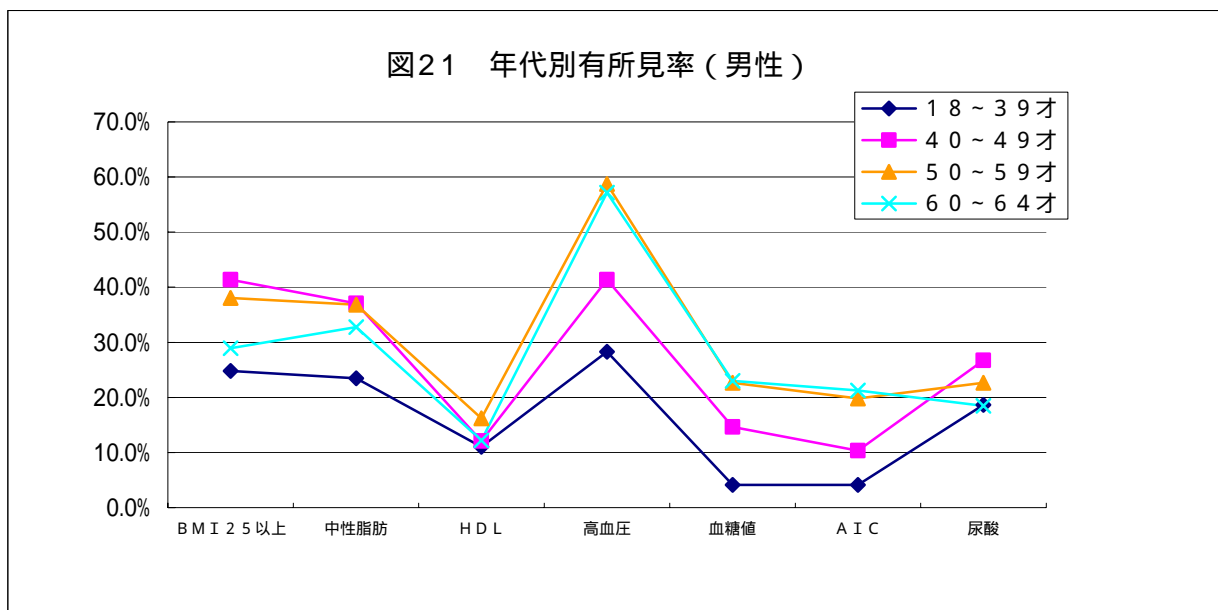
特に男性では、40歳代、50歳代になると「異常なし」の割合が極端に少なく、「要医療」の割合が高くなっています。

年代別有所見率では、男女ともに50代以降において、高血圧の項目で高くなります。

男性の40代では、肥満(BMI 25以上)、中性脂肪、尿酸の項目において有所見率が高くなっています。



(平成17年度 基本健康診査結果)



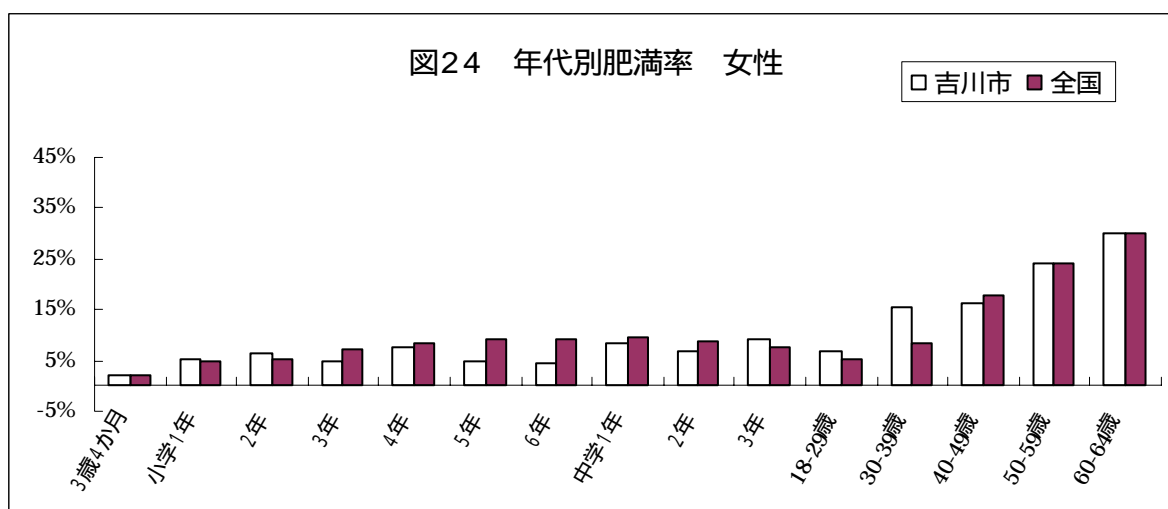
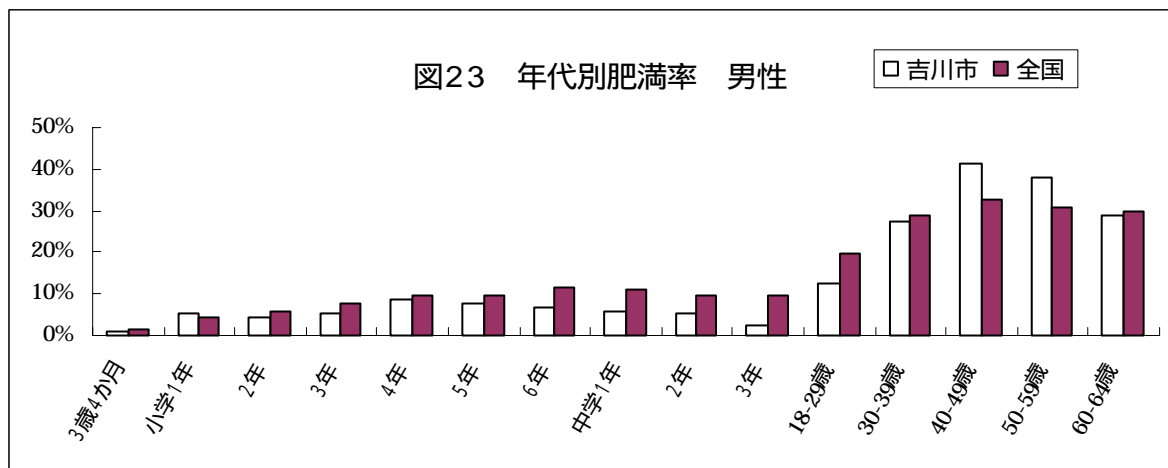
(平成17年度 基本健康診査結果)

(3) 肥満者の状況

幼少期、学童期の肥満率は、全国に比べ大きな差はみられません。

男性では、40歳代、50歳代において、全国に比べ、肥満率が高くなっています。

女性では、20歳代、30歳代において、全国に比べ、肥満率が高くなっています。

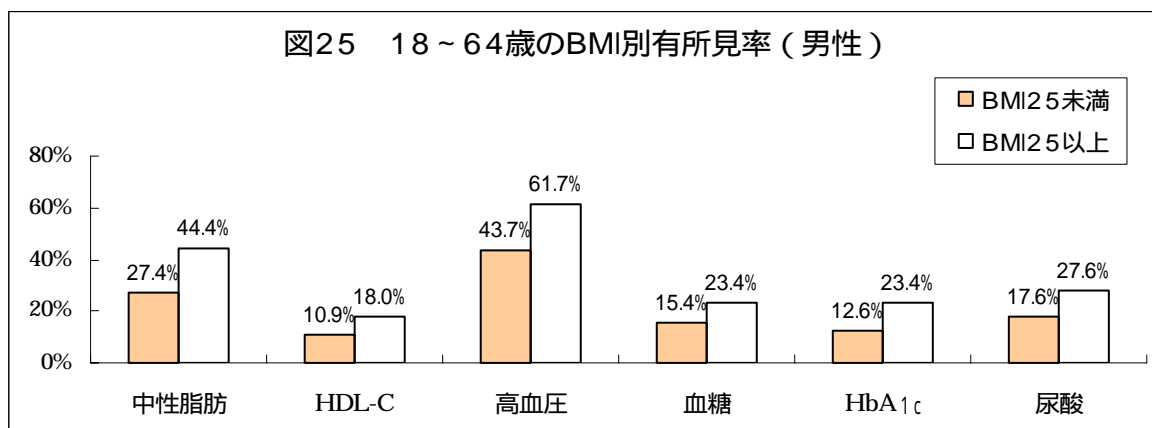


(基本健康診査結果・乳幼児健診結果・学校定期健診結果・国民栄養調査)

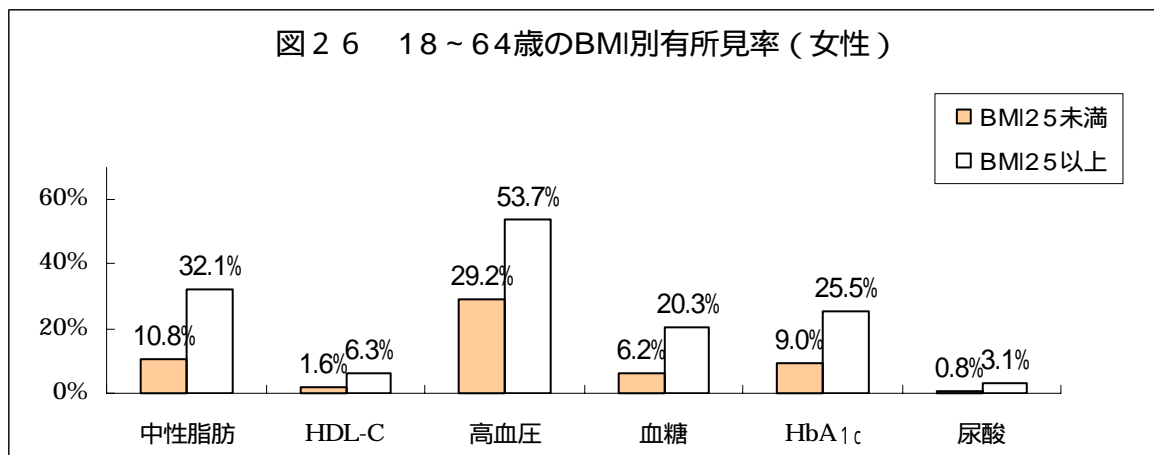
(4) BMI 別有所見率

基本健診においてBMI 25以上の方と、BMI 25未満の方とを比較すると男女とも、他の検査項目においても有所見がみられることがわかりました。

BMI 25以上の方は、高血圧を合併している方が多く見られます。



(平成17年度 基本健康診査結果)

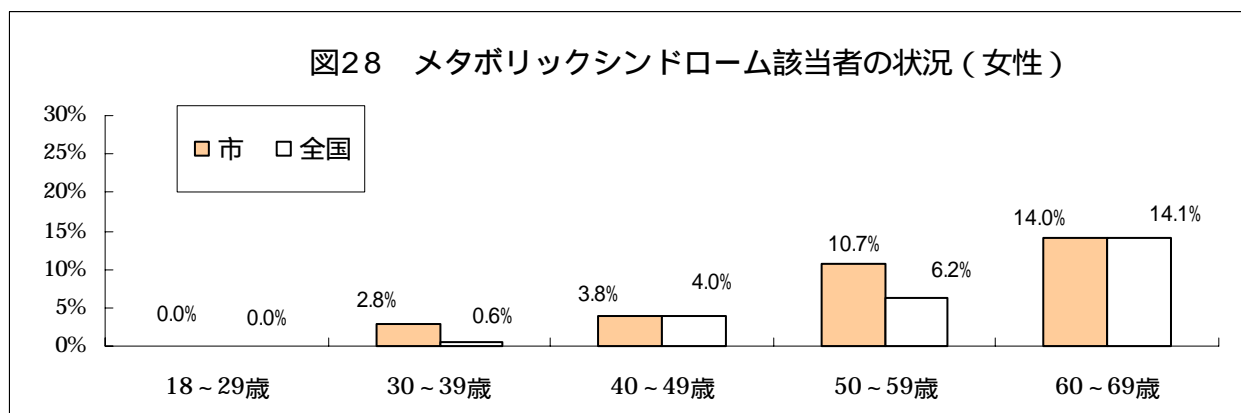
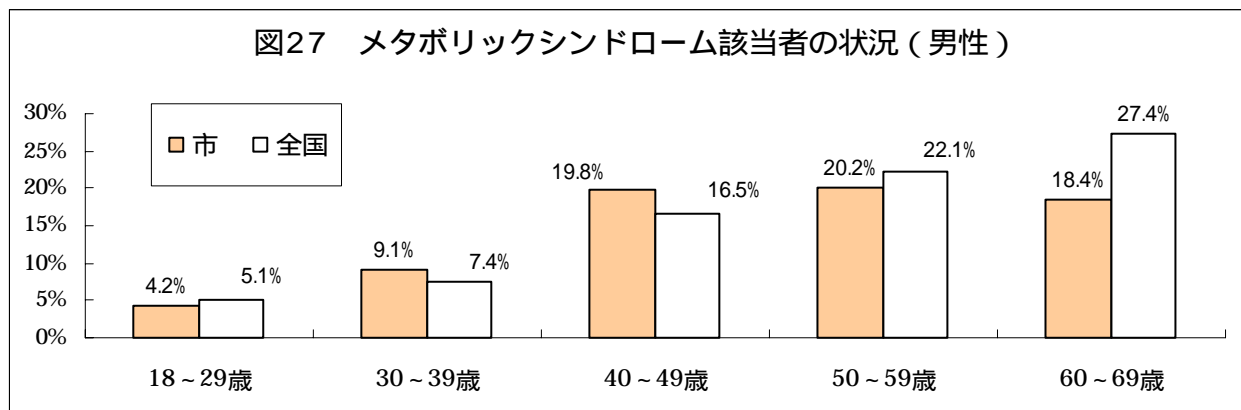


（平成17年度 基本健康診査結果）

（5）メタボリックシンドローム

全国的にメタボリックシンドローム該当者は多くなっています。特に男性の40歳以降と、女性の50歳以降に増えています。

吉川市基本健診においてメタボリックシンドローム該当者の割合は、男性では30歳代、40歳代、女性では30歳代、50歳代において全国より多くなっています。



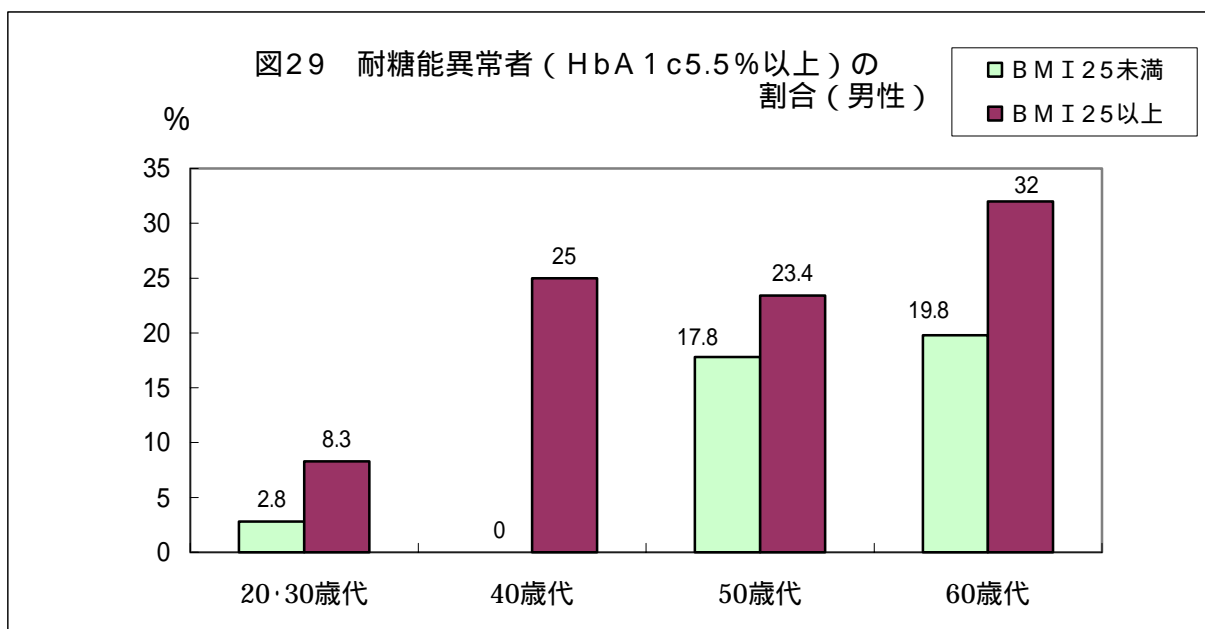
（平成17年度 基本健康診査結果）

吉川市では、基本健診で腹囲測定をしていないため、BMI 25 以上で耐糖能異常 (HbA1c 5.5%以上)・高血圧・脂質代謝異常のうち、2 つ以上あてはまる場合を該当者としています。また、全国では腹囲が男性 85cm 以上・女性 90cm 以上で耐糖能異常 (HbA1c 5.5%以上)・高血圧・脂質代謝異常のうち、2 つ以上あてはまる場合を該当者としています。

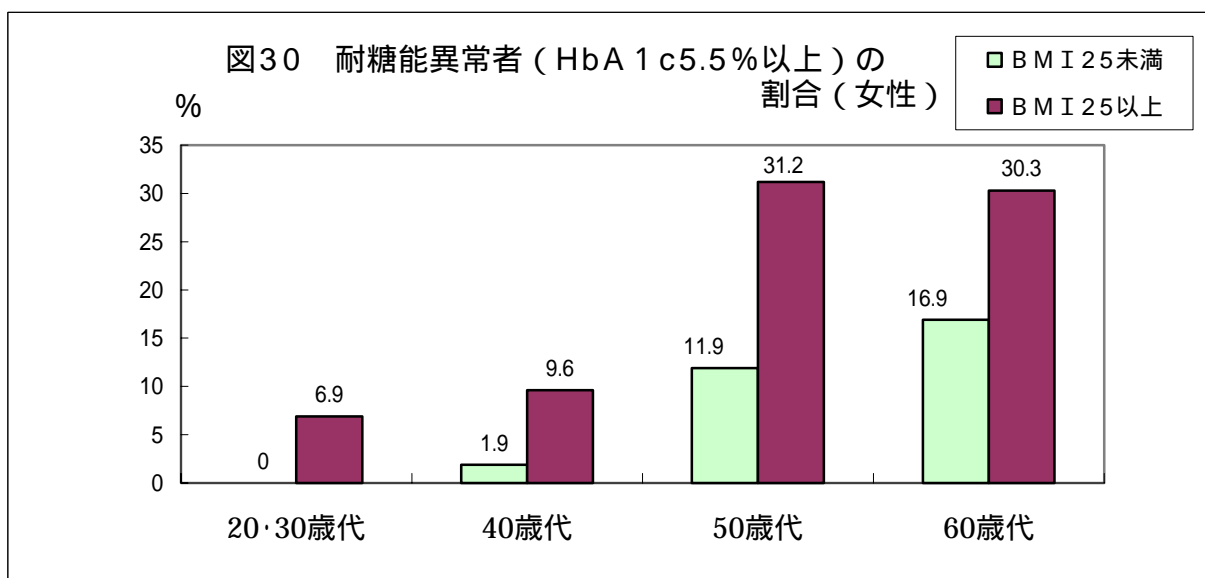
(6) 肥満と糖尿病

基本健診において耐糖能異常者 (HbA1c 5.5%以上) の割合は、BMI 25 以上の肥満者に多いといえます。

特に女性では 50 歳以上になると、BMI 25 以上の耐糖能異常者 (HbA1c 5.5%以上) の割合が倍になっています。



(平成 17 年度 基本健康診査結果)

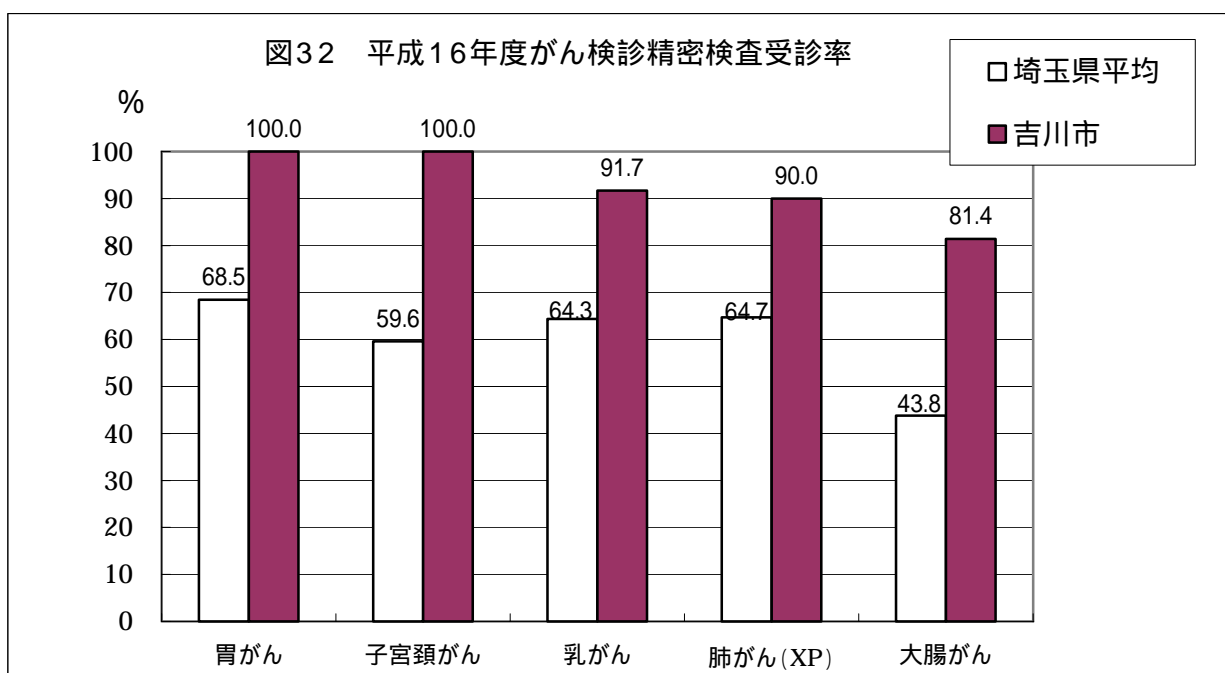
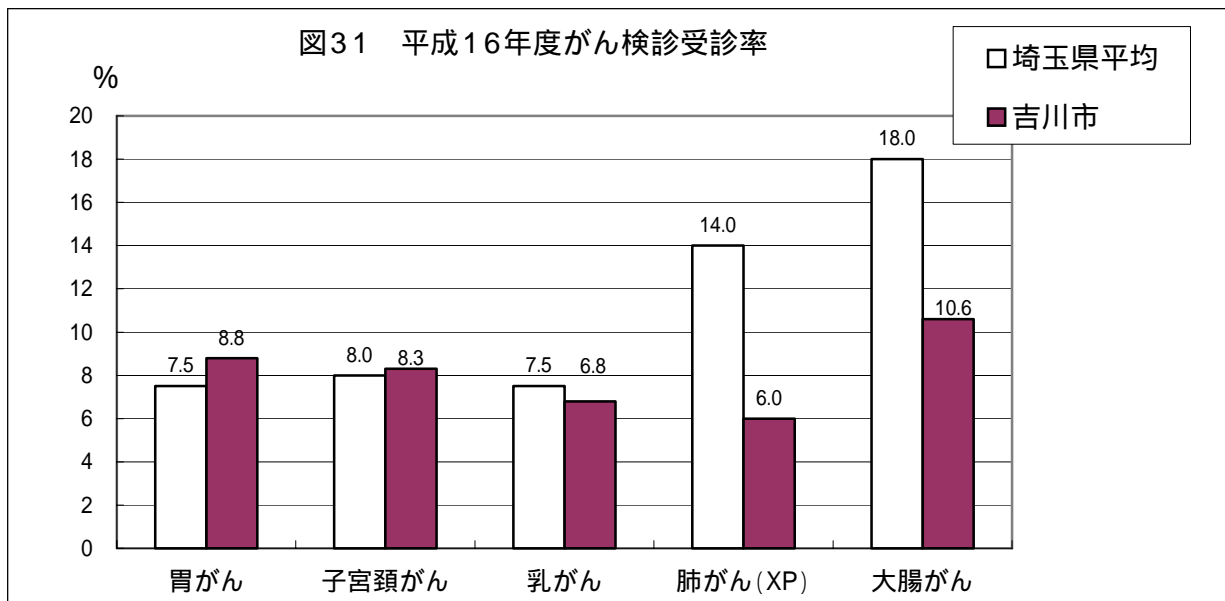


(平成 17 年度 基本健康診査結果)

8 がん検診受診者の状況

(1) 受診率

胃がん、子宮頸がん、乳がん検診の受診率は、県平均と同程度です。
 肺がん、大腸がん検診の受診率は、県平均を大きく下回っています。
 がん検診後の精密検査受診率は、非常に高くなっています。



(埼玉県：がん検診結果統一集計結果報告書)

9 歯科検診の状況

(1) 幼児検診の状況

県平均と比較すると、一人平均むし歯数、むし歯罹患率、ともに県平均より下回っています。
1歳8か月児健診から3歳4か月児健診に至る間に、1人平均むし歯数、むし歯罹患率とも約10倍に増えています。

表5 歯科検診結果の推移（吉川市と埼玉県）

			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
1歳8か月児	1人平均 むし歯数(本)	吉川市	0.10	0.13	0.04	0.12
		埼玉県	0.11	0.10	0.09	
	むし歯罹患率 (%)	吉川市	2.9	3.4	1.7	3.1
		埼玉県	3.7	3.3	3.1	
3歳4か月児	1人平均 むし歯数(本)	吉川市	1.23	0.91	1.26	1.12
		埼玉県	1.39	1.28	1.19	
	むし歯罹患率 (%)	吉川市	28.3	22.3	30.3	28.7
		埼玉県	32.1	30.6	28.6	

(2) 学校定期健診の状況

年齢が高くなるにつれ、1人平均むし歯数およびむし歯罹患率が高くなっています。
平成16年度の健診時と平成18年度の健診結果を比較すると、どの学年も1人平均むし歯数、むし歯罹患率とも改善しています。

表6 学校定期健診結果推移

		小1年	小3年	小5年	中1年	中2年	中3年
1人平均 むし歯数(本)	平成16年度	0.08	0.38	0.78	1.07	1.68	1.95
	平成17年度	0.09	0.24	0.69	1.31	1.48	1.92
	平成18年度	0.03	0.31	0.51	1.12	1.29	1.43
むし歯 罹患率(%)	平成16年度	10.4	27.6	36.1	42.7	47.0	45.9
	平成17年度	11.2	15.3	33.0	43.4	40.7	50.7
	平成18年度	8.3	17.2	28.2	42.7	47.0	45.9

(3) 成人歯周疾患健診の状況

平成18年度歯周疾患健診結果では、「異常なし」は13%、75%が「要精検」となっています。

39歳以下の若い世代においても、約6割近くが「要精検」となっています。

表7 成人集団歯周疾患検診結果（平成18年度）

		~39歳	40 ~49歳	50 ~59歳	60 ~69歳	70歳 以上	計
異常なし	人数(人)	30	5	12	7	4	58
	割合(%)	20.7	10.2	13.5	6.0	10.8	13.3
要指導	人数(人)	32	2	4	10	3	51
	割合(%)	22.1	4.1	4.5	8.5	8.1	11.7
要精検	人数(人)	83	42	73	100	30	328
	割合(%)	57.2	85.7	82.0	85.5	81.1	75.0
計	人数(人)	145	49	89	117	37	437
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

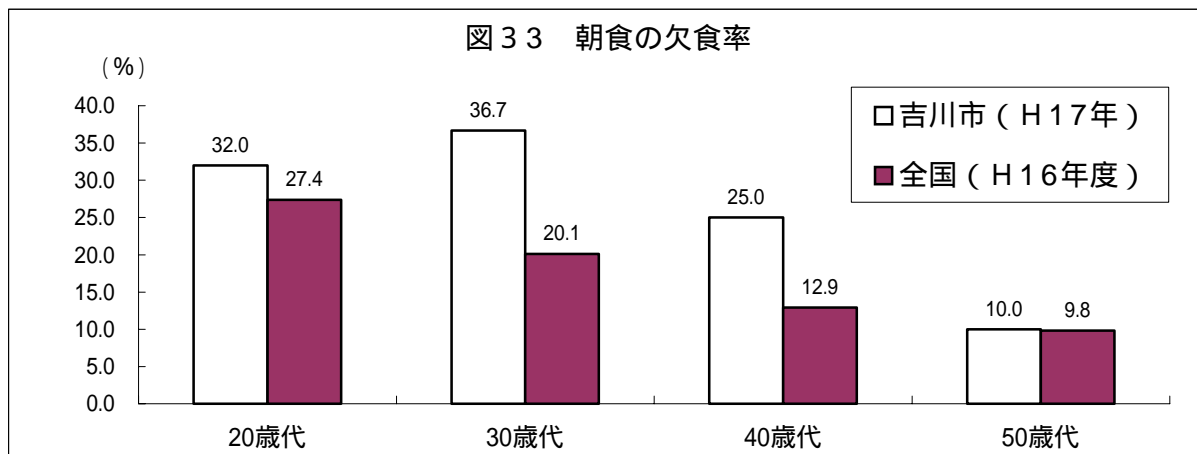
11 食生活の状況

(1) 成人期

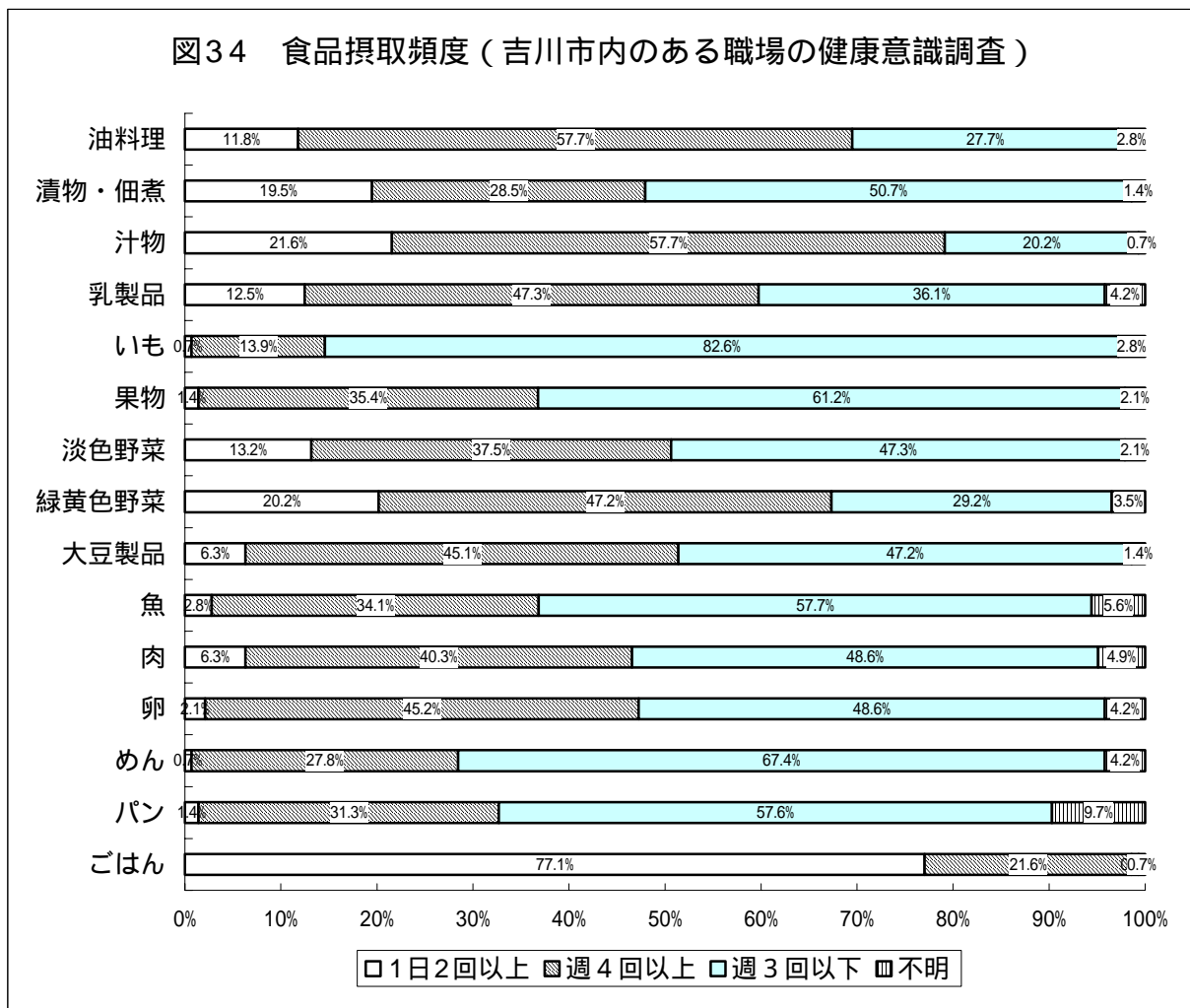
朝食欠食率は、全国平均より上回っています。

20歳代~40歳代の若い世代では、4人に1人以上が朝食を抜く習慣があるといえます。市内のある職場の健康意識調査によると、汁物や漬物などの塩分を多く含んだ食品を摂取している割合が高いことがわかりました。

また、毎日、毎食摂りたい野菜も、1日2回以上摂取している人は5人に1人と低い割合になっています。



(吉川市内のある職場の健康意識調査・国民栄養調査)



1) 幼児期

朝食の内容は、9割の子どもが主食中心の朝食となっています。

朝食に野菜を摂取している子どもは2割となっています。

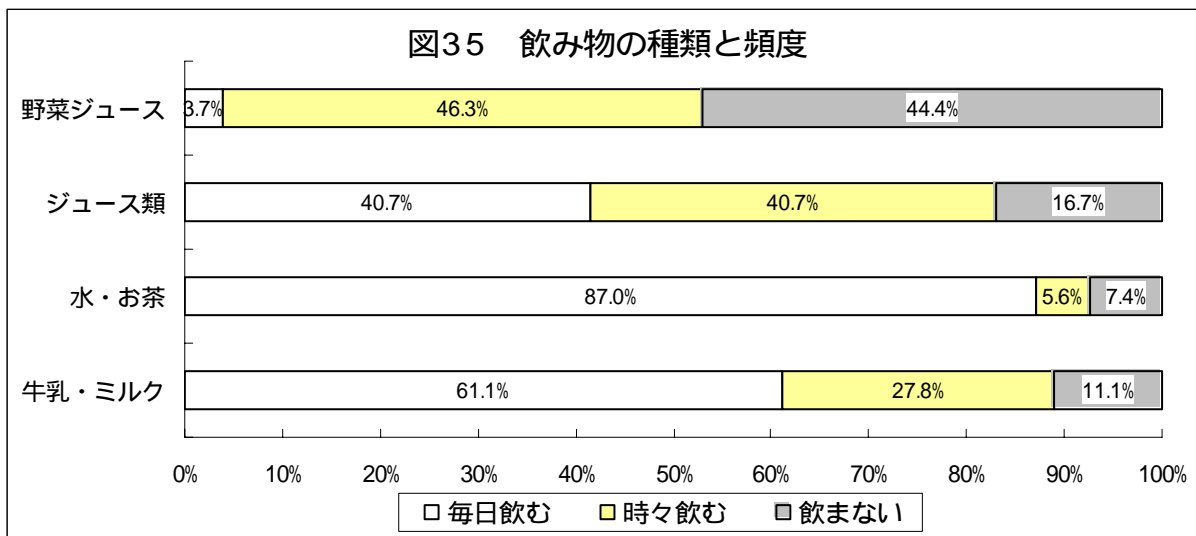
1割の子どもは、朝食にジュースを飲んでいきます。

牛乳・ミルクを毎日飲んでいる子どもは、6割となっています。

また、ジュースを毎日飲んでいる子どもは、4割となっています。

表8 朝食に食べているもの（平成17年度吉川市幼児食生活アンケート調査より）

主食	主菜	野菜	汁物	果物	乳製品	ジュース	その他
94.4%	51.9%	20.4%	24.1%	16.7%	40.7%	11.1%	3.7%



(平成 17 年度吉川市幼児食生活アンケート調査)

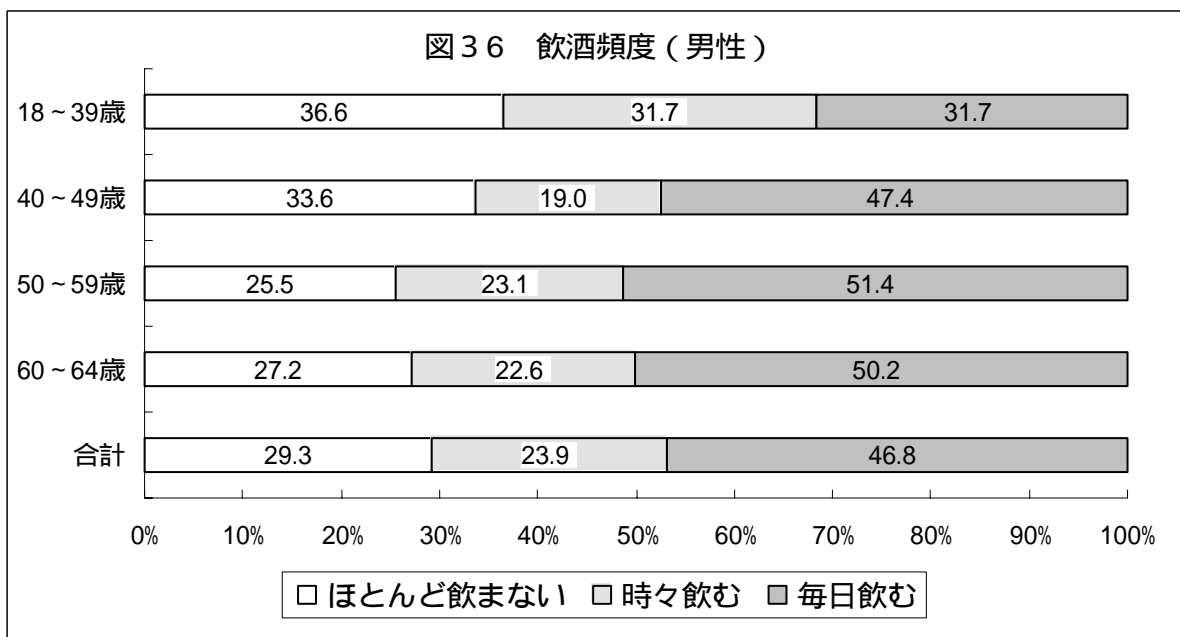
1 1 飲酒の状況

(1) 飲酒頻度と飲酒量

飲酒頻度は、40歳以上の男性の約半数が、「毎日飲む」としています。

40歳代男性の約3割が、多量飲酒をする生活習慣となっています。

年齢とともに、飲酒回数が増え、飲酒量も増えています。



(平成 17 年度基本健康診査結果)

表9 飲酒習慣のある人の一日合計アルコール摂取量（男性74人、女性16人）

純アルコール量	適正飲酒 20g以下	21g～59g	多量飲酒 60g以上
20歳代	46.7%	33.3%	20.0%
30歳代	44.8%	31.0%	24.1%
40歳代	27.8%	38.9%	33.3%
50歳代	21.4%	50.0%	28.6%
合計	34.4%	38.9%	26.7%

（平成17年度吉川市内のある職場の健康意識調査）

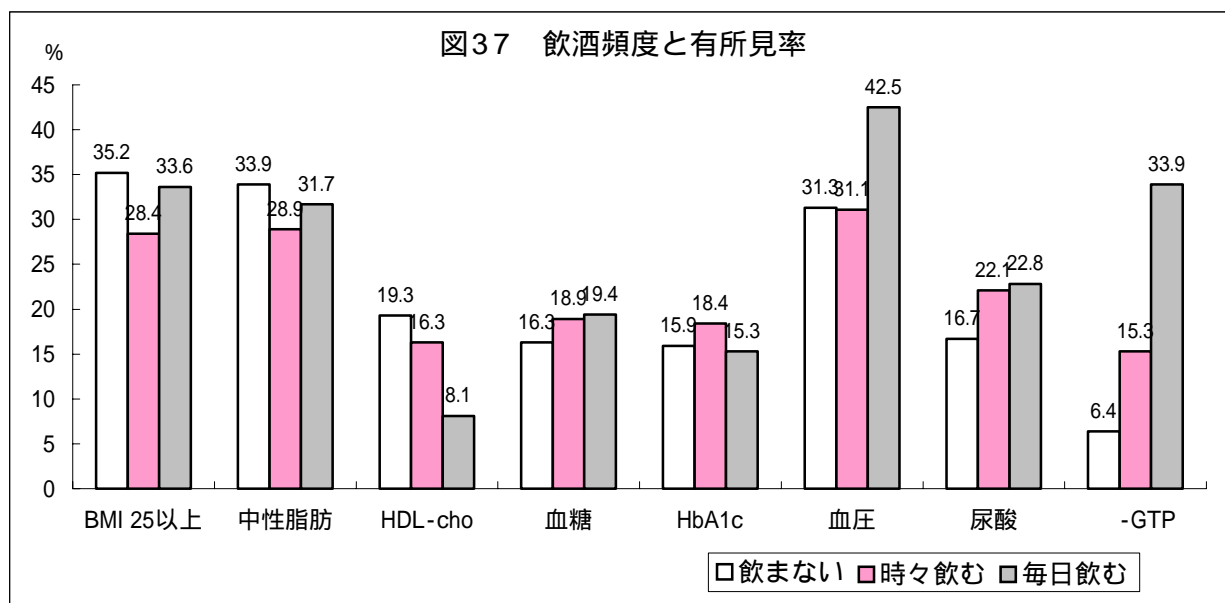
《参考》 主な酒類のアルコール換算の目安

お酒の種類	ビール (中瓶1本 500ml)	清酒 (1合180ml)	ウイスキー・ ブランデー (ダブル60ml)	焼酎(25度) (1合180ml)	ワイン (1杯120ml)
アルコール度数	5%	15%	43%	25%	12%
純アルコール量	20g	22g	20g	36g	12g

2) 飲酒と健診結果

「毎日飲む」としている人に、血圧、 γ -GTP（肝機能を診る検査項目）の有所見率が高くなっています。

飲酒頻度が増えるにつれ、血糖値、尿酸値の有所見率も高くなっています。



（平成17年度基本健康診査結果）